ひとこと

● 野菜便届かぬ暮れ

春はジャガイモとタマネギから始まり、ふぞろいで虫食いの夏野菜、そして秋には大根、里芋、大豆など、滋賀県で暮らす母の汗の結晶が毎年届けられて、30年になる。

宅配便のなかった頃、スイカがコモにくるまれて割れずに届いた時は、「まあ、ご無事でなにより」と安堵した。

母も年とともに野菜作りがつらいだろうと勝手に心配して、「送料もかかるし、近くでいくらでも買えるから無理しないで」と断ったこともあった。

しかしある時、野菜づくりが母の生きがいだと気づいた。

季節ごとに届く野菜には母の生活ぶりがぎっしりと詰まっている。「母の元気は野菜の元気」であり、手作り野菜は母の元気バロメーターとなった。

そして、届いた野菜をおいしく食べることが、遠く離れた母への「親孝行」だと思うようになった。母のぬくもりと土のにおいに故郷を思い出しながら、届いた野菜を家族みんなでいただいた後、「おいしかったよ、また送ってね」と励ましの電話をかけることで、母の元気を応援してきた。

ころして毎年届いた野菜便も今年の夏野菜で終わりになってしまった。9月に母は86歳で天国に召された。届かぬ秋野菜に、母をしのび、感謝と冥福を祈る年の暮れである。

千葉県我孫子市　佐藤　節子　主婦・58歳